



## 議員メッセージ



本シンポジウム開催にあたり、国会議員お二人からメッセージが届きました。

今回のシンポジウムのパンフレットを拝見し、みなさまがたが、これから日本語教育のマスタープランを作り、それを国に対して積極的に提言されようとする姿勢に感銘いたしました。「豊かな共生社会」を大切な基盤とした日本語教育施策の向かう先には、軍事とはまったく違った次元で、我が国の安全保障を長期的に維持する大きなチャンスが見えます。

そのようなシンポジウムに今回参加できないこと、非常に残念に思います。19日から、先住民族地域の和平推進に向け、世界中で集めた署名を持って首相に申し入れをするために、バングラデシュにおります。

私も、国内、海外の大学などで国際開発学などを教えた経験がありますが、「人づくり」こそ、もっとも意義のある仕事だと思います。みなさまのご努力に心からの敬意を表します。

シンポジウムが大きな成果を収めることを祈念しております。

2010年3月18日  
衆議院議員  
阪口直人

日本語教育について国の包括的なマスタープランは必要です。その根拠となる法制度の整備ももちろん不可欠。それは私の持論でもあるので、シンポジウムの討論に加われないのが残念です。

週末はいつも地元金沢に戻っていますのでご理解ください。

日々日本語教育の現場で汗を流されているみなさん。そのみなさんが一同に会して、日本の社会、日本の政治に爽やかな一石を投げようとしている、その心意気と勇氣には、一政党の一員としてではなく、国民の代表として心から感謝します。

いつか膝を突き合わせてみなさんと議論できる日を楽しみにしております。

2010年3月19日  
衆議院議員  
衆議院文部科学委員会筆頭理事  
馳 浩